

第33回大会

臨床の本質に向かう ～ソーシャルワークの基軸を成すもの～

開催日時：2023年9月17日（日）10:00-16:50

開催方法：ライブオンライン(Zoom)開催

＋大会主旨

保健医療分野における多くのソーシャルワーカーは、退院支援システムの導入等、近年の相次ぐ制度変更により、組織的に求められる目の前の対処に追われる日々が続いている。また、その一方で自らの実践を振り返るとき、向かうべきソーシャルワークの本質から遠ざかっているのではないかと苦悩を抱いている。これらの課題は深刻さを増し、実践・教育双方から指摘されているところである。

本大会ではそこに焦点を当て、ソーシャルワーカーが向かうべき臨床の本質を問い、その学びを深め、自らの基軸をより確かなものとすることを目的とする。

基調講演：「臨床の本質に向かうとは」

松澤和正（前帝京大学医療技術学部教授）

事例部会：座長 野村裕美（同志社大学）

報告者 内田敦子（前東海大学医学部付属病院）

基調講演者 松澤和正（基調講演から引き続き参加）

自由研究発表：演題募集（詳細は第33回大会演題募集要項参照）

＋プログラム

午前	午後
10:00-10:10 開会のあいさつ	13:00-14:30 基調講演
10:00-12:10 自由研究発表	14:30-14:40 休憩
12:10-13:00 昼休憩	14:40-16:40 事例部会
	16:40-16:50 閉会のあいさつ



基調講演者紹介 松澤和正氏

専門は臨床人類学及び精神看護。1957年埼玉生まれ。慶応義塾大学大学院工学研究科（修士課程）修了。埼玉県庁、法律事務所を経て、精神科病院勤務。准看護師・看護師資格取得。千葉大学大学院文学研究科（修士課程）修了、同大学院（博士課程）単位取得退学。国際医療福祉大学保健医療学部看護学科准教授・教授、千葉県立大学保健医療大学健康科学部看護学科教授を経て、2015年～2023年3月まで帝京大学医療技術学部看護学科教授。主な著書として、『臨床で書く 精神科看護のエスノグラフィー』（医学書院,2008）、『精神科看護のナラティブとその思想 臨床での語りをどう受け止め、実践と研究にどうつなげるのか』（遠見書房,2018）、トニー・E・アダムス他著松澤和正他訳『オートエスノグラフィー 質的研究を再考し、表現するための実践ガイド』（新曜社,2022）、詩集『病棟』（七月堂,2022）など。

本学会では、2015年度セミナー「研究の技術を聴く講座III 意味を科学する（質的分析）」（講師）、また2019年度第29日大会事例部会「臨床を読み解くーエスノグラフィーからの示唆ー」（コメントーター）等をご担当いただきました。この度の第33日大会では、基調講演、並びに、久しぶりに開催となる事例部会にもご登壇いただく。

＋対象	本学会会員・非会員	＋参加申込期間
＋参加費	会員 2000円 非会員 3000円 学生 1000円	2023年6月19日（月） ～9月4日（月）

＋申込み方法

以下のURL（QRコード）からお申込みください。

登録されたメールアドレスに、順次room情報や参加費振込み方法の連絡、当日資料等が届くこととなります。万が一届かない場合は、最優先メールや迷惑メールボックス等をご確認の上、学会事務局までお問い合わせください（メール：jsswh@a-youme.jp）。

申込み用URL（QRコード）<https://forms.gle/93reYrD7GUK6GI4f9>



一般社団法人日本保健医療社会福祉学会（概要）

本学会は、保健医療分野のソーシャルワーカーと研究者が協働してこの分野における社会福祉学を確立し、その実践・研究の発展に寄与することを目的とした学会です。1991年に発足した日本医療社会福祉学会を前身とし、2019年に、さらなる発展を目指して法人化し、名称も変更しました。

目的を達成するために、日本保健医療社会福祉学会大会をはじめとする学術集会やセミナー等の開催、学会誌の刊行、保健医療分野におけるソーシャルワークの実践的研究の推進のための事業、社会福祉学の研究及び教育の推進のための事業、生涯教育体制及び資格の検討及び推進のための事業、関連学術団体との連携及び協力、国際協力等を行ってきました。現在会員数は約320名で、社会福祉・ソーシャルワークの研究者、教育者とソーシャルワークの実践者が協力しながら学会活動を進めており、日本学術会議協力学術研究団体としても認められています。